

俳句通信

特別作品20句 本井 英「おへそが見えて」

特集〈“明日への触手”の俳人たち〉

青山 丈 「独活食べて」

奥坂まや 「太虚」

池田澄子 「氏名」

坊城俊樹 「夏目雅子」

好井山江 「あとかたもない」

神野紗希 「手の記憶」

坪内稔典 「朝の青梅」

生駒大祐 「記憶」

柳生正名50句「春元と」

【競詠16句】

平栗瑞枝 「種牛」

蔵本美美子 「薔薇の絵」

長田群青 「牡丹」

鎌田 俊 「一家言」

【新連載・一知半解】

「文法至上主義者」からひとこと

菅野孝夫



●作品● 柴田鏡子・吉田紀一・村上喜代子・山田問子・名村早智子・野中亮介・米山光郎・三輪初子・
阿部月山子・宮崎夕美・小田切輝雄・津森延世・柴田佐知子・丹羽真一・水田光雄・檜山哲彦・
森須 園・和田 桃・成川雅夫・成田清子・畑中とほる ほか



湖東・ 近江八幡あたり

写真／樋口成

特別作品 20句

おへそが見えて

本井 英

牡丹の蕾緑を湛へそむ

高架線ホームにありて花の昼

鯉沈むとき花筏巻きこめる

クロネコのリヤカー便や雪柳

花曇ウエットスーツ干しつらね

特集

「明日への触手」の俳人たち

本誌連載の西池冬扇氏の〈明日への触手〉は

明日の俳句の可能性に触れていると思われる俳人について書き継がれてきました。そこに挙げられた俳人のうち8人の俳人に新作12句を出していただきました。

「文法至上主義者」からひとつこと

菅野孝夫

『俳壇』三月号の「俳壇時評」に仁平勝氏の「文法は法律と違う」という文章があった。氏は「昨今俳壇には議論というものがない」と嘆いておられる。その通りだと思いが、仁平氏は何を議論しようとしているのかというと、昨年「文語と口語の交差点」という文章を書き、「一句の中に文語と口語が交じってはいけないという人がいる。自身のセオリーとしては構わないが、そのセオリーで作品を批評するのはおかしい」というものだった。

美人の湯出てしばらくを裸なり 太田うきぎ

この句には「出て」という口語と「なり」という文語が交じっている。ゲラの段階でそれを作者に伝えたら「美人の湯出でてしばらく裸なり」と直してきたが、元の句のほうが断然いいと気づいたのである、という。

氏はもう一つの例をあげている。三村純也句集「一」に「思ひ立つたが吉日の伊勢参」という句があり、初出の『俳句』では思ひ立ちしが吉日のとなっていたという。この句は「思い立ったが吉日」という諺を詠み込んでいるのだから、それを文語に直すのはおかしいとアドバイスして受け入れられたのだというが、思ひ立ちしが……と

いうのはそもそも怪しげな表現だ。口語の「た」を見境なく「し」に置き換える、初心者がよくやる間違いではないかと思う。なお、氏の言う諺は私の持っている辞書には「思ひ立つ日が吉日」としか出ていない。

私の考えは単純だ。口語文脈に文語が交じるのは仕方がない。日常的によくあることだが、文語（平安時代に発達し、固定された言語の体系や文体）の文脈に口語が入り込んだものには抵抗を覚える。なぜなら文語の時代には現在私たちが使っている「口語」はなかったからだ。

「文法至上主義者が理解していないのは、文法は法律と違うということだ。先に文法という規則があつて、それに則って私たちは言葉を使っているのではない」と言う。「有力な作家の誤用は作品の魅力によって免罪される」という立場もありうる」という井上泰至氏の主張に同意見だというのだから、こちらはそんじょそこらにごまんと居る「文法至上主義者」の一人だから困ってしまう。

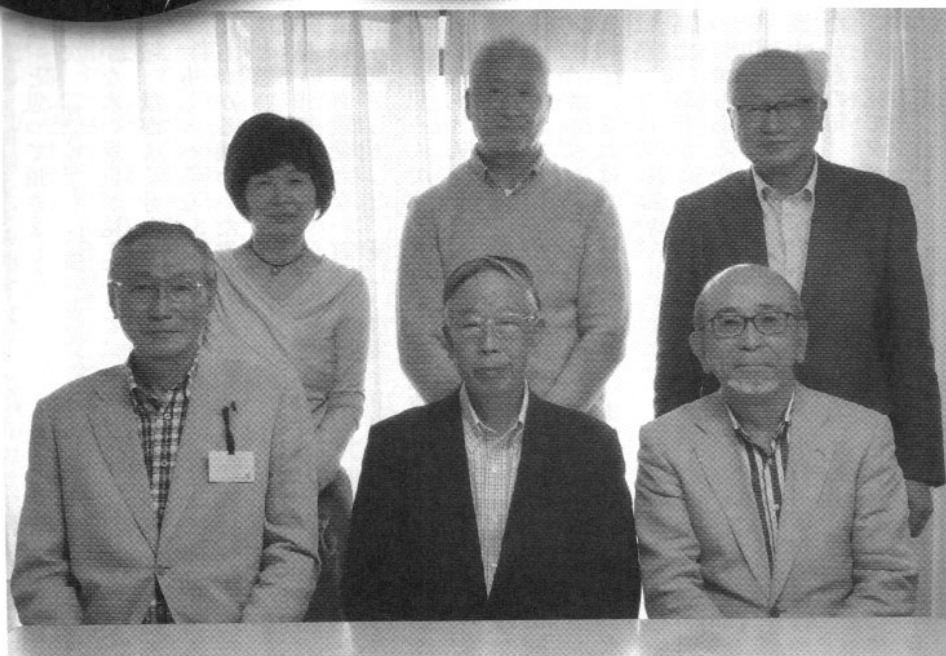
もっともらしい主張だが、氏は文語と口語をいっしょくたにしているようだ。なるほど言葉は変化するものがあり、例えばラ抜き言葉にしても、みんなが使いだして、認知された時点で自然にその使い方に一定の法則が生れ

柳生正名 50句

春元と

青 鮫 忌 過 ぎ 米 を 研 ぎ 戦 ま た
紙 雛 挟 み 岩 波 文 庫 「 戦 争 論 」
終 焉 に つ い て 雛 あ ら れ に つ い て
鳥 葬 も 恋 も し て 人 春 の 風
牛 声 の チ ベ ッ ト 僧 と 囁 り と
ぬ り か べ と い ふ 妖 も 霞 み け り
春 陰 と い へ ば さ う か も 知 れ ぬ 空

やぎゅう・まさな
昭和34（1959）年5月19日 大阪市生まれ
『海原』『椿』同人 著書に句集『風媒』評論『元太再見』



前列 右から金谷氏、吉田氏、寺島氏
後列 右から星野氏、鈴木氏、藤本氏

ゲスト 金谷洋次・鈴木不意

寺島ただし・吉田幸敏

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集部 超結社句会60回目です。本日のゲストは「秀」同

人の金谷洋次さん、「なんちゃ」代表の鈴木不意さん、「駒草」同人の寺島ただしさん、「栞」同人の吉田幸敏さんです。5句投句、7句選です。忌憚のない意見交換をお願いします。

高士 では、始めます。今日は4点が最高です。

水は黙貫き通し未草

◎◎◎◎

ただし いかにも睡蓮の池の感じがするんですね。水には波も立っていないんでしょう。「未草」は白く輝くような色で咲いている。「水」の黒さと「未草」の色の対比もきれいですし、静かな「水」を「黙貫き通し」といったところに惹かれましたね。

美和子 無駄なところがない句だな、というところで頂きました。ただ、「黙貫き通し」はちよつと理屈っぽいかな、と実は思っています。でも「未草」が咲いているようなところって、広々とした水面があって、その水面の静かさ